

# ラオスのこども通信

発行：特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603

31号  
2004年7月発行



## 特集 1 ラオス・スタッフ座談会

日々、子どもたちを見つめて。 ..... 1

## 特集 2 次の中期計画に向けて ..... 4

ヴィエンチャン事務所から ..... 7

東京事務所から ..... 8

ボランティア掲示板 ..... 9

お知らせ ラオス語あもしろ話 ..... 10

NGO ネットワーク ..... 11

ラオスの子どもの活動に参加し支えてくださったみなさん ..... 12

セコン県の小学校で図書配付と子どもたちへの聞き取り調査をする  
スタッフのポーケオ



### お届けします。 ラオスからの生の声。

日々、ラオス各地の子どもたちに接し、現場の動きをとらえて、プロジェクトをコーディネートする「ラオスのこども」ヴィエンチャン事務所。

今号では、ここで活動する私たちの仲間、それぞれの思いをお伝えします。→特集1

また、各プロジェクトの運営に関わっているラオス側の先生や各機関の人々が、プロジェクトをどのように評価しているのか。3月、4月にかけて開かれた会議の報告をします。→特集2

「ラオスのこども」は今、3期目の中期計画（2004年7月～2007年6月）づくりに取り組んでいます。最大のテーマは「事業の自立化」。ラオスの人々が主体となって運営をしていくことです。ポイントは担い手としての意志と能力をもった人材が揃っていくこと。

以下、ご紹介しますように、会のラオス・スタッフの声から、教員養成校の先生方や子ども文化センターのスタッフの問題意識から、事業の自立への方向が見えてきています。

こうした人々の力をもとに中期計画を立て、「ラオスのこども」は、次のステップへと進んでいきます。どうぞ、ご支援ください。

## ラオス・スタッフ座談会

## 日々、子どもたちを見つめて。

ヴィエンチャンの事務所には、ラオス人のスタッフが7人、ボランティアが1人います。その8人の目を通して、ラオスと会の様子をお伝えします。聞き手は、駐在している近藤知子です。

## ヴィエンチャン事務所の仕事

——仕事で、とくに印象に残っていること、楽しいと感じることは？

ボーケオ（以下、ボ）学校を訪問して、子どもたちに質問をしながら、いろいろ話をするのが好き。去年訪問したヴィエンチャンの山奥の学校では、少数民族の子どもたちは、最初は恥ずかしがって逃げていたけど、質問しているうちに笑顔で答えてくれるようになって楽しかったです。

パンオーン（以下、バ）教員養成学校での研修。全国8か所で3年間講師をしました。学生たちが私の言うことを理解してくれて、上手にできたのを見ると、仲間が増えた気がしてうれしかったです。カオニヤイ（以下、ニヤ）私も。講師をするのは初めてだったし。同じ年代の学生たちと4日間一緒にいたので、研修が終わって別れる時はつらくて、みんなで泣いてしまいました。

チャンシー（以下、チャ）紙芝居が作れるようになったこと。まだ上手ではないけど。

近藤（以下、近）チャンシーさんの作品、『へびのたいそう』は五十崎の紙芝居コンクールで、審査員賞を受賞しましたね。おめでとう。（p8をご覧下さい）

スッター（以下、ス）私は、会計の知識が増えたこと。

カオノイ（以下、ノ）CCCの来館者や貸出しの集計ができるようになったこと。図書の貸出しのしかもも覚えたし、活動もできるようになりました。

アナチャック（以下、ア）初めてボリカムサイ県まで行って読み聞かせをしたとき。とっても楽しかったです。



事務所スタッフ。

以下、左から。

ソンペット：所長。仕事のスピードとリーダーシップの強さは超人的。屋台や行商人を見ると買わずにいられない。おやつを買ってきてはみんなに分けるのが趣味。

チャンシー：CCC担当。彼女の読み聞かせや紙芝居はゆっくりとやさしく、聞いていて心地よい。

スッター：会計担当。山のよ

——では、仕事を始めたころを振り返ってどうですか？

ソンペット（以下、ゾ）教育支援の仕事は私の夢でした。各地の学校を訪問して子どもの現状を見て、この仕事の大切さを再認識しました。やりがいがあります。

バ 私が事務所に来たのは10年前。いちばん長いわね。事務所の図書室で子どもたちの相手をしていました。あのころは、お昼もゆっくり食べて、少しは昼寝もできた（笑）。

チャ プロジェクトや仕事の仕方が最初はよくわからなかつたけど、いろいろ研修も受けて覚えてきました。

ニヤ 経験がなかったので、最初は子どもの接し方や、子どもへの働きかけも上手にできなくて大変でした。

ノ 最初は事務所の掃除が私の仕事でした。それから子どもたちに紙芝居をやるようになって。今では、たくさんの人の前でやるときもあるけど、緊張しちゃう。

ア ぼくは、子どもたちと一緒に活動できるんで、わくわくしました。

近 今の仕事は楽しい？

全員 楽しい！でもときどき疲れる（笑）。

——大変なのは、どんなこと？

バ 教員養成学校での研修は、受講者も300人以上と、こんなに大きなセミナーは経験したことがない、最初の年はとても疲れました。だんだん要領もわかってきて、去年は1か月に3校行きましたけど、精神的には楽でした。

チャ いくつもの仕事を担当していて、それぞれ

うな領収書類をコツコツと計算して、会計報告書を作っている。相当の面食いのせいか、花の独身。

ボーケオ：読書推進プロジェクト担当。厳しい目つきでパソコンに向かい、書類作りでは彼女の右に出る者はいない。笑うと一気に目じりが下がる。

パンオーン：読書推進プロジェクト担当。事務所設立当初から働く。図書室開設事業

はこの人が支えている。ラオス・スタッフ一お酒に強いというウワサも。

カオノイ：毎朝いちばん早く来て掃除をし、お客様が来るとお茶を出し、終業まで小さい体で動き回っている。森にディスコに連れて行ってもらうのが楽しみらしい。

カオニヤイ：紙芝居の達人。彼女の手作り紙芝居は、あちこちの学校で活躍している。



時間がかかることがあります。例えば、図書の管理を担当しているけど、学校に配付する本を数えて、在庫を管理するのは時間がかかるので、リストを作るのが遅れてしまいます。

ス JICA のプロジェクトが始まってから、処理する書類が相当増えました。でも、簡単に記入できる書式を作ったり、みんなで書類の書き方も工夫してくれたりして、仕事の効率を上げるにはよい機会だったと思います。

ア 図書の登録がむずかしい。

ソ 関係先と連絡をとって、情報を得ること。地方だとなかなかほしい情報が手に入らなくて。

―― これからどんな仕事をしたい？ できるようになりたいことは？

ソ 地方の学校の情報を正確に得るためにシステムを作りたいです。地方に積極的な学校があるっても、私たちには伝わらず、支援のきっかけがつかめない。

ボ データの整理。いろいろ書類を作つてフロッピーディスクに保存しているけど、整理する時間がなくて、肝心な時に保存場所がわからなくなつて探すので。バ この図書室の本を整理したいです。せっかく本を寄贈して下さったのに、整理する時間がなかつたので。

チャ、ニヤ、ノ パソコンを習いたいです。

近 どんなことに使いたい？

チャ 本の配付と在庫をパソコンで管理したい。今は電卓で計算しているので面倒。

ノ 来館者や貸出しへは電卓で集計しているけど、パソコンでできれば楽だろうなあ、と思います。

ニヤ 私は紙芝居の作り方を勉強したい。

ス 会計の書式を改善して、全てのプロジェクトで統一して、効率化したい。

## ヴィエンチャンの変化、子どもたちの様子

―― ヴィエンチャンは、どんどん変わっていきますね。

全員 道路が広くなつて、きれいになつた！

ノ ほとんど舗装されましたね。でも、渋滞もひどくなつたね。

近 交通事故も増えて。みんな、バイク通勤、気をつけてね。

ソ 通信事情もよくなつたわね。東京ともメールでやりとりできるようになって、便利になった。それで急ぎの仕事も増えたけど…。携帯を持つ人も増えたわね。うちのスタッフもほとんど持っている。

ボ インターネットも発達して、インターネットカフェ

まあちこちにできました。私もたまに行つて、アメリカにいる親戚とIP電話で話していますよ。

ソ 私たちの活動に関したことでは、多くの先生が読書に興味を持つようになり、本や図書室をほしいという要望も増えました。先生だけでなく、親たちも、子どもが本を読むことに理解を示すようになって、子どもをここに連れてくるようになったわね。

チャ 去年11月のジャパンウエークの物産展で私たちも本を展示しました。親子連れや、大人の方が本を興味深くご覧になって、売つてほしいというご要望も繰りときたんですけど、非売品なので多少のご寄付を頂いて、70冊以上お分けしました。

―― CCCに来る子どもたちに変化は？

ソ 小さい子が参加するようになったわね。みんな舞踊、歌、絵などを進んで披露するようになりました。

バ そう、積極的になったわね。CCCを開いた頃は、黙つて聞いていただけで、読んでごらん、と言うといやがっていたけど、今では自分から朗讀しています。読み方も上手になりました。

チャ 絵本を劇にして演じる子どももいますよ。

ボ 本が読めるようになった子どもが、小さい子に読んであげているのは、見ていてほほえましいね。

ソ いちばん大きな変化は、子どもがボランティアとして活躍するようになったことよね。みんな楽しみながら、手伝ってくれているわね。

ニヤ 図書貸出し手続も自分たちでできるようになりました。図書の整理の仕事も手伝ってくれているし、歌やゲームのボランティアを務める子どもも出てきましたね。

チャ 6月1日の「子どもの日フェスティバル」でも、大活躍しましたよ。このCCCとシーサタナーカーCCCの子どもたち60人位が、ボランティアとして、パクグム郡の会場に行って、展示の準備やお絵かき教室などのアシスタントをしてくれました。

ソ ここから1時間くらいの村に、子どもはみんな貸切バスで行ったのよ。みんなあまり遠出することもないで、ピクニック気分で本当に楽しそうだった。

―― 最後に、日本の皆様へのメッセージをお願いします。

ソ ラオスの子どもたちを支援してくれて、深く感謝しています。遠く離れた日本で多くの方が私たちのプロジェクトに共感してくださっていると思うと、力がわいてきます。

「子どもの日フェスティバル」でのアナチャック（前列左）。ボランティア。CCCの活動を支えている。子どもたちも彼と遊ぶのが大好き。子どもたちがいない時は、カセットで歌を練習している。

## おまけのインタビュー

―― みなさんの私生活を聞いちゃいます。仕事が終わってからの楽しみは？

ソ 家族と過ごすこと。

チャ 私も、子どもと一緒にアニメを見るのが楽しみ。

バ 家で音楽を聞いたり、本を読むこと。

近 みなさん、よく本を読んでいる？

全員 もちろん！

ス 眠れない時には効果的（笑）。

近 得意なことは？

ボ 料理、歌。タイのポップスが好き。

チャ 編み物。毛糸のティッシュケースを作つて、お寺の行事で売ることもあるのよ。

ニヤ 料理。歌はラオスの盆踊りの曲が得意。以前は、パーティがあるとバンドのボーカルとして歌っていたわ。

ス 料理かな。

ノ 料理。

ア 歌。

近 みんなディスコは行かないの？

全員 日本から出張者（森さん）が来たときには、連れて行ってくれる時しか行けない。

近 これは重要。東京に伝えておきましょう。

## 次の中期計画に向けて——ラオスの関係者による問題分析と事業評価

### 読書推進プロジェクト

先生全員、子ども、父母会による図書委員会を。

読書推進プロジェクトでは、2002年12月からJICA（国際協力機構）との開発パートナー事業を進めています。連携事業の折り返し点として、2004年4月末～5月上旬に中間評価を実施しました。読書推進活動を担ってきたラオス人関係者自身の手で問題点を整理し、それらの解決に向けて、課題を共有化しました。

2005年11月までに、次のことを行います。

- 図書箱・袋を、7県の小学校1,000校に、新規に配付する。
- 6タイトル、計3万部の本を出版する。
- 出版した本を、10県の小学校1,000校に、補充として配付する。
- 配付時に、教員に研修を行う。
- 研修用にハンドブックを配付する。
- 県の教育委員会の教育指導官が、配付校に読書推進の指導をする。

中間評価は、プロジェクトの進捗状況を確認し、問題点を洗い出し、後半の活動につなげることが目的です。ヴィエンチャン県、カンムアン県の4郡の教育局、学校6校で実地調査を行い、その後、プロジェクト関係者で評価会議を実施しました。

評価のポイントは、「子どもたちが自主的に読書をするようになる」というプロジェクトの目的に適った内容となっているか（妥当性）、効率的に進められているか（効率性）、プロジェクト終了後も、その社会に定着し、自立的に発展を遂げていきそうか（自立発展性）、など。

実地調査で明らかになったことは、第一に多くの先生・生徒が図書管理に参加することで成果を上げているということです。子どもが図書管理に関わる学校では、彼らに責任感が芽生え、図書はよく維持・管理されていました。



第二に、教育指導官の役割の大きさです。教育指導官が担当地域の学校の図書活用状況をフォローし、読書推進活動を指導することが、このプロジェクトの発展のカギとなること、教育指導官の育成の必要性を認識しました。

#### ■プロジェクト関係者自身による分析と

##### 活動計画づくり

評価は、プロジェクトに関わる様々な人々が参加するワークショップ形式で行われました。

ラオス国立図書館、教育省、当会スタッフなど、これまで読書推進活動に携わってきた関係者15名が集まり、2グループに分かれ、実地調査の結果や各自の経験をもとに、「読書推進運動実施にあたっての問題点」を半日かけて分析しました。

カードに問題点を書いて、それぞれのカードを原因と結果で結びながら、因果関係の木（ツリー）を作っていました。終始活発な議論が続き、ツリーの形は刻々と変化していました。

各々のグループでツリーができ上がり、これをもとに、問題解決を検討し、次の5つの重要課題を挙げました。

- 1 学校自身で図書を補充する
- 2 図書を適切に維持・管理する
- 3 読書推進活動をカリキュラムに取り入れる
- 4 プロジェクト目標への理解を共有化する
- 5 学校同士で視察し、意見交換する

これらの課題を達成するために、今後1年半かけて実施すべき活動計画を作成。限られた期間に自分たちができる事を念頭に置きながら、「先生全員、子ども、父母会による図書委員会を組織することを読書推進セミナーで指導する」など、具体的な28項目を設定しました。

プロジェクトは、妥当性、効率性、自立発展性いずれも、適切であると評価されました。

開発パートナー事業もあと1年半、今後は、この2日間の議論を通して作り上げた活動計画を実施することに焦点を絞っていきます。

（近藤 知子）

# 教員養成校における読書推進プロジェクト

人材育成の自立化の力に。

「全国8校の教員養成校の講師が8,000人の学生に図書活動の指導をした。その学生が教員となって、それぞれ30人の子どもを指導すれば、24万人が読書の習慣をつけることができる」  
読書推進活動の人材育成の自立化をめざし、教員養成校の講師が司書活動などの教授法を習得することをねらいとする取り組みを、2001年から3年間実施し、2004年3月、その評価会議が、ラオス教育省教員養成局の課長の、こんなあいさつとともに開かれました。

子どもたちが読書習慣を身につけることをめざす  
読書推進活動で、私たちは「人材育成の自立化」  
の目標を立て、教員養成校で読書推進の授業が  
カリキュラム化されるよう取り組んできました。

評価会議には、各校の校長、講師、カリキュラム担当者、国立図書館職員、教員養成局、当会  
が参加。ある教員養成校は、「この取り組み以前、  
図書室を利用する学生は1日に20～30人だったが、現在は150人となった」と報告。教員の卵  
が積極的に図書を利用するようになったことは大きな成果です。

## ■カリキュラム化への課題

とはいえ、カリキュラム化されるには、整備しなければならないことが山積しています。

まず、授業においては、講師1人に学生300～400人と多すぎる。しかし、小グループに分か  
れると、教材が充分ではない。教える側の能力もまだ十分でない、などの問題が出されました。

そして、現行のカリキュラムに、どうやって読書推進の授業を割り込ませるか。特別活動に入る、集中講義でやるなど、各校ともに苦労を訴えつつ、十分な指導には時間数を増やすべき、また相応の日当も必要との指摘がありました。そうした中、ルアンパバーンからは、カリキュラムを見直して科目を整理し、時間をつくったと報告がありました。

## ■試作版の指導書と教科書に厳しい評価

講師用の指導書と学生用の教科書の試作版もできました。読書推進活動を担ってきた、ラオス国立図書館の職員が中心となり執筆しました。

試作版に対する評価は、文章が分かりづらい、記述量と授業での設定時間が合わない、子どもを引きつける活動が書かれていない、生徒との作業や質問を設けて生徒から多様な答えが引き出されるようにすべきなど、教室での実践を想定しての意見が相次ぎました。

こうした厳しい意見は、「任せておけない。自分たちでやらなければ」という、教員養成校の意思



の表明で、今後、執筆は教員養成校の教職員も加わることとなりました。

## ■教員養成校を読書推進の拠点に

さらに、教育実習の受け入れ校に図書が整備されていない、その学校の校長が読書推進活動への理解が薄いといった問題も挙げられました。

これへの対策として、教員養成校が域内の学校の図書箱、図書袋の管理をすべき。教員のトレーニングも必要。教育委員会は情報だけくれば、あとは自分たちでやる。と、ここでも、読書推進の担い手は自分たちだという意気込みが伝わってきました。

現在、教員養成校を卒業して教員となる率は50%程度といわれています。そこで、学生の意欲を高めるため、受講証書を発行しようという案が出され、また、教育省教員養成局のセンドゥアン局長は、教員養成校で「学士」を与え、「司書」の証明書を発行することで給与に反映されようとする検討をしたいと述べました。

このように子どもが読書に親しむための基盤作りが着々と進む中、必要とされる支援で、優先順位の高いのは、以下の3つです。

- 1 本（実習用、図書館用、赴任先用）
- 2 講師の研修（紙芝居などの新しい活動）
- 3 評価費用（小学校の読書推進の定着状況について）

自立化に向けて、ポイントを明確にした支援をしていきます。（森透）

## 次の中期計画に向けて——ラオスの関係者による問題分析と事業評価

### 子ども文化センター (CCC)

子どもたちの新たな問題。職員、館長に求められる資質。

子ども文化センター (CCC) が発足して10年。現在、準備中のものを含め、全18県のうち13県、20か所で展開している。3月末、当会が支援する8か所のスタッフ、講師、館長、各県教育委員会・情報文化局担当者など約30名が、ヴィエンチャンに集まり、今後3年間の計画を話し合った。

#### 子ども文化センター (CCC) のスタッフ・講師が挙げた今のラオスの子どもたちの問題

- 1 麻薬汚染。麻薬の恐ろしさを知らない
- 2 無駄遣い。ゲームや飲酒。良いこと悪いことの区別ができない。子どもの誕生パーティーをホテルやディスコで開くのが流行
- 3 ラオスの歌を教えて、歌うのはタイの歌。カラオケやバーで歌い、教えた通りに表現してくれない
- 4 スポーツで金を賭ける。金がなくなると洋服を売ったり、盗みをはたらく
- 5 家族の問題。貧しさ。親同士のけんか。離婚。親の愛情を感じなくなって非行に走る
- 6 忍耐力、責任感のない子が増えている

#### 館長たちが感じている子どもの問題

- 1 家庭の温かさが足りず、しつけが正しく行われていない
- 2 子どもを誘惑するもの。麻薬、ビデオ、VCD。飲み屋が増え、子どもも行きやすい
- 3 地方の子どもは貧しく、教育を受ける機会がない。枠割当てで小学校を卒業しても進学できず、絶望感が残り、問題を起こす

#### CCCの子どもの問題

代表に選ばれないと活動に来なくなる。選ばれた子は先生に食事を持ってくるなど、すり寄る。貧しい子、障がいのある子のための機会が少なく、CCCに来ない。学校やCCCが町に集中し、田舎の子どもは通えないなど。

#### CCCでスタッフ・講師に必要なことは何か?

- 1 仕事が好き、子どもが好き
- 2 講師、スタッフ、子どものよい関係
- 3 語り、絵などの才能
- 4 創造性。新しい物を考え、子どもに提示
- 5 奉仕精神
- 6 論理的に対処し、子どもに説明できる
- 7 健康的、動きがきびきびしている
- 8 子どもにとって模範になる
- 9 仕事に責任感を持つ

10 詳しい計画を立てられる

11 節約精神を持つ

12 他の人の知識を学ぼうとする姿勢を持つ

13 教える技術。子どもが興味を持つか常に気配

14 定期的に、子どもの理解を評価

なお、館長側からは、1.2.5.7.9.が不十分という評価である。

館長自らの能力で必要だと思うことは?

1 知識、能力、心理的な専門性

2 CCCの仕事に対する責任感

3 仕事の計画性

4 奉仕精神、子どものための理想を持つ

5 子どもを指導した経験と才能を持つ

6 創造的な考えを持つ

7 子ども、スタッフを全員平等に見る

8 行政、親、先生、子どもとよい関係を持てる

9 健康であること、積極的であるなど

このうちとりわけ重要なのは、3と4と自己規定。支援側から見ると、館長の仕事に資金を集めることができていないのが気になる。

今後3年の運営目標について、各CCCから共通して出されたこと

講師、スタッフのレベルアップ、研修。保護者会の結成。子ども、講師、親による評価会の実施。読書推進の僻地での普及。スポーツ活動の強化。

さらに一部のCCCからは、

子どもたちによる地域、僻地での読書推進・子どもの権利活動の推進。これまでに機会のない子どもの受け入れ。

これらから見て取れたのは、運営と研修資金支援以外は、自分たちが計画を立て、進めてゆけるという自信。そして先行する4つのCCCと新設4CCCの実力の違いである。

今年の会議で共通していたのは、子どもたちの新しい問題に対応しようという姿勢であり、その根幹に子どもの権利の保障を据えようという姿勢であった。(野口朝夫)

# ヴィエンチャン事務所から

左 民話短編集 「薬草売り」  
右 「ぼくはどこへいくの」



## 現地プロジェクトの動き

### ● 絵本出版

#### 民話『薬草売り』

絵本コンクールの入選作品から、表題作の他『王子の嫁えらび』『牛のふんをなめる』を収録。親孝行、賢さ、そしてユーモア。民話のエッセンスが詰まっています。

作：マニボーン・アットパスク他2名

絵：ドゥアンパチャン

初版 5000 部

(支援：沖電気工業株式会社)

増刷『文字絵本 “なんのどうぶつ？”

1, 2巻』

1997年初版。美しいラオス語詩で構成されるこの作品は、識字教育の教材としても最適。子どもたちにも人気があり、文字

を指さしながら声を出して詩を読む姿がよく見られます。

作：ドゥアンドゥアン・ブンヤポン

絵：ケオ・サイヤポン他 (7名合作)

第3刷各 6000 部

(支援：日本国際協力財団)

#### 創作『ぼくはどこへいくの』

土に還ってゆくバナナちゃん、行き場のないビニール袋くん。両者の違いから、身近な環境問題に気づいてもらおうという絵本。6年前にラオスを視察した苗村信行さん(環境の絵本を送る会)の、子どもたちに環境の大切さを、という思いが構想の始まり。生活に根ざしたバナナの文化をあたたかく描いたのは、10年来ラオスと関わる絵本・紙芝居作家やべみつのりさん。

作：森 透

翻訳：チャンタソン・インタヴォン

絵：やべみつのり

初版 13,500 部

(支援：ラオスに環境の絵本を送る会／東京都民間国際事業助成金)

※当会の絵本出版事業の 100 冊目です。

### ヴィエンチャン事務所の動き

2/8～14 ホアパン県図書補充・読書推進セミナー

2/14 ハクアン 96 (ホアパン県ムアンヒエン中学高校) 開設

2/15～16 国際ボランティア貯金普及協会の現地視察ツアー受入。8名、ハクアン 34 (トンサンナン村図書館) とポリカムサイ CCC を視察。

2/17 ハクアン 97 (ホアパン県ムアンエート小学校)

2/18～20 ミクプランニング平沼和弘さん来訪 (出版事業、ポリカムサイ CCC 支援事業の現地視察)

2/20～26 京都学園大学 堀田穂さん来訪 (紙芝居研究および指導のため)

2/28 ヴィエンチャン都・県ハクアン定例活動報告会

3/16～17 JICA-NGO 合同研修 (基礎編)

3/21～22 子ども文化センター・プロジェクト評価会議

3/23～25 教員養成校プロジェクト評価会議

3/27～4/19 近藤一時帰国

4/29～5/4 ヴィエンチャン県とカンムワン県で JICA 開発パートナー事業中間評価実地調査

5/5～6 JICA 開発パートナー事業中間評価会議

5/11 JICA-Net ラオス日本小学生交流

5/11 JICA-NGO 合同研修 (応用編)

5/28～6/1 「子どもの日」週間のイベントに出展

※ハクアン=学校図書室

### ● 図書補充

2/8～2/14 ホアパン県 170 校

(支援：JICA 開発パートナー事業)

### ● 学校図書室 (ハクアン)

2/14 ハクアン 96 ムアンヒエン中学高校

2/17 ハクアン 97 ムアンエート小学校

2校ともホアパン県

(支援：ベルマーク教育助成財団)

### ● 子ども文化センター

4月、「教育活動開発センター」の建設工事がスタート。課外活動や表現活動に力点を置いたヴィエンチャン都教育委員会の教員研修施設で、実践の場として子ども文化センターが併設されます。年内完成予定。その後、現在ラオス事務所の建物内に置かれている子ども文化センターを移転する予定です。基本設計は野口朝夫建築設計所が無償で協力。(支援：日本NGO支援無償資金協力／ヴィエンチャン教育委員会教育活動開発センター建設事業)

## ■ ラオス便り ■

今回は5月 11 日に行われた「小学校交流事業」について報告します。

これはJICA の遠隔技術協力システム JICA-Net の事業の一環で、日本とラオスの子どもたちがテレビ会議の形で直接対話をし、お互いの文化を理解し広い視野を養ってもらおうというもの。もちろんラオス初。ヴィエンチャン市のノンプアトーンヌア小学校 4～5 年生と四日市の暁小学校の 6 年生、それぞれ 70 名ほどが大スクリーンを通して交流を楽しみました。当会はプログラムの共同企画や、ラオス側の学校との調整を行いました。

ラオス側会場は Lao Japan センター会議室。テレビ画面に暁小学校の講堂が映ると「わ～映った」と手を振る子どもたち。画面の向こうで「かわいい～」の声。

交流プログラムは、学校の紹介、校歌齊唱(こちらには校歌はないので国歌)、学校生活クイズ、質問と意見交換など。質問の一部を再現してみましょう。

ラオス どうして制服が 2 種類あるのですか?

日本 冬服と夏服です。ラオスは何種類?

ラ 1 種類です (もちろん夏服のみ)

日 お昼ごはんは買うこともあるんですか?

ラ ほとんど家に帰って食べますが、帰らない子はお弁当を持ってきたり、学校や近くの店で買ってきます。

日 いくらですか?

ラ 2000 キープ (25 円くらい) くらい。

日 (安い～、とざわめく)

こちらの子どもたちの感想「日本の皆さんと直接お話ができる、とても楽しかった」。しかし、もっと質問したかったという声も。緊張して質問を思いつかなかつたらしい。日本からの感想は「ラオス語を教えてもらって楽しかった。でも難しい」などなど。文字通り、顔の見える交流ができました。

ここで皆さんにラオスの学校生活クイズを。

第1問 ノンプアトーンヌア小学校の生徒が一番好きなスポーツは?

(1) サッカー (2) 野球 (3) バドミントン

第2問 ラオスの小学生が授業で必ず習うものは?

(1) 伝統舞踊 (2) エアロビクス (3) 空手

→ 答えは 12 ページ

(ヴィエンチャン事務所: 近藤 知子)

# 東京事務所から

左 紙芝居ジュニアの部優秀賞  
「いたずらっこシャツ」  
右 紙芝居一般の部優秀賞  
「おばけのパンボット」



## 国内活動報告

### ■ ラオスの中学生の作品が大賞

「第13回世界子ども愛樹祭コンクール」

(3/28福岡県矢部村)

「大地のいのち・自然のめぐみ・地球への愛」がテーマのコンクール。ラオスからの応募は年々増え、今年は112点。絵画の

部に日本全国と世界10カ国から寄せられた3000点余りの中から、ルアンパバーンの中学生センダオ・ボンサワンくん(14)の作品が見事、森の大賞を受賞しました。センダオくんは引率のブンルートさんと共に受賞式にあわせて来日。約1週間福岡に滞在し、他の受賞者や矢部村のみなさんと交流しました。

さんは、ラオス事務所のスタッフ。元気なラオスの紙芝居、これからも楽しみです。

### ○ジュニアの部

優秀賞『いたずらっこシャツ』

マリワン・シーチャントーンテップ(9才)

佳作『かしこい子カエル』

ヴィーサイ・マーニット(10才)

佳作『ブタとニワトリ』

普タ・ラーク(12才)

### ○一般の部

優秀賞『おばけのパンボット』

ボアワン・シーダラー

佳作『ミミズくん危機一髪』

ウッティ・シリポン

やべみつのり賞『へびのたいそう』

チャンシー・ワンナポン

### ■ 広がる参加の輪!

#### ラオス語絵本づくり体験イベント

絵本をめぐりながら楽しくラオス語訳を貼り、できた絵本がそのままラオスに届いて子どもたちを楽しませる…参加者とラオスをつなぐボランティア活動として、ラオス語絵本づくり体験が人気です。体験後は個人でも気軽に続けられるのもポイント。みなさんのお職場や学校でも、やってみませんか?事務局までご相談ください。

2月~5月に開催されたイベント

「アサヒビールワールドカルチャーキャラバン」

ボランティア体験講座「きいて・つくって・あ

### ■ 熊本でイベント(3/29~31)

ブンルートさんとセンダオくんの滞在中、熊本市と八代市の3か所で「アサヒビールワールドカルチャーキャラバン」が開かれ、女性や子どもたち、お年寄りや障がいを持つ子どもたちと交流しました。これは昨年、大分県で行われたアサヒビール主催のイベントでご縁ができたNPOくまもとと、橋本聖美さん、アサヒビール(株)のご協力で実現。お世話になったみなさん、ありがとうございました。

### ■ 紙芝居も続々入賞!

「第1回手づくり紙芝居コンクール」

(5/3愛媛県五十崎市)

和紙の里、五十崎(いかざき)で開かれたコンクールに、ラオスから37点も応募。『いたずらっこシャツ』には、「日本の子どもには描けないような作品です。最後の絵がとても素敵でした」との寸評をいただきました。『おばけのパンボット』を描いたのは、『まるちゃんのともだち』の作者のボアワンさん。『へびのたいそう』のチャンシー

世界子ども愛樹祭  
コンクール森の大賞  
センダオくんの作品





### じわうラオス」

(2/20 アサヒビル西ノ宮工場)

36人が参加し、絵本38冊がラオスへ。  
「今年もやります ラオスの子どもに絵本を贈ろう！！」

(4/14 住友商事株式会社)

職員のみなさんをはじめ地元中央区の方、大学生など、37人が参加し、絵本64冊がラオスへ。

### 「ボランティア体験講座」

(5/21 東京海上火災保険株式会社)

19人が参加し、絵本29冊がラオスへ。「こんなチャンスを探していた」「ちょっとしたことでも役に立ててうれしい」「初めて知るラオスの現状に驚いた」等の感想が寄せられました。

### ■ ラオスの子どもが地元ケーブルTVに登場

OTAケーブルネットワークの15分番組「じゃんじゃかオータウン！」で当会が紹介されました。イベントや運営会議などに1ヶ月余り密着収材。現地プロジェクトから国内活動まで、きめ細かく取り上げていただきました。

「本が広げる子どもたちの未来～『ラオスの子ども』の国際的な活動～」

放送日：5月21日～31日

### ■ サバイディ・ピーマイ・パーティ開催 (4/24 東京大田区)

ラオスのお正月に合わせ毎年4月に開いている当会最大イベント。本格ラオス料理のほか、活動報告や手芸品販売など、めいっぱいラオスを楽しんでいただくパーティです。今年は新会場に移り、バーシー儀式体験や留学生による伝統舞踊、「子ども文化センター体験コーナー」など、盛りだくさん。北は仙台、西は京都から109人の方がご来場されました。ありがとうございました。企画運営はボランティアとラオス留学生合わせて52人の力です。お疲れさまでした。収益約40万円は、活動および運営資金として活用させていただきます。

協賛：アサヒビル株式会社

キッコーマン株式会社

(ボランティア掲示板もご覧ください。)

## ボランティア掲示板

### サバイディピーマイパーティー裏話！？

#### ■ 大活躍の留学生についてみました バーシーの飾りに、 身近な伝統

互いの手首に白い糸を結び、幸福を祈るバーシーの儀式。本来はバナナの葉で作られる飾りですが、当会では紙の模型で代用。そこへ留学生が白糸をセットし、花を飾ってくれました。

こういうのは、ラオスの人は誰でも作れるの？

「誰でもじゃないです。お年寄りが作っているのを、子どもたちが見ていて、自然と作れるようになる。だからそういう経験がない人は作れないよ」

みを与えてくれたこと。

私は未熟ながらボランティアのリーダーとして参加しましたが、当日痛感したことは、演出に配慮が足りなかったということでした。せっかく皆が作ったおいしい料理や力作の展示物や踊りを、もっと引き立たせる演出ができればもっと良かったと思います。

来年も今年の改善点を元に、参加者も、ボランティアも、皆が楽しめるパーティを皆で作っていけたらと思います。  
(久留雅美)

#### ■ ラオス事務所のボランティアから 東京デビュー

ラオス事務所では小さな雑用をお手伝いして、子どもと遊んでいました。自分自身が煮詰まってしまったときは自然に足が向いていました。スタッフや子どもたちと過ごすことで、気持ちがすっきりして、私の方がボランティアされていました。

ふだんは明るく働いているスタッフや子どもたちを取り巻く環境が徐々に分かってくると、複雑な気持ちです。ラオスで子どもたちに接して、人から聞いたり、本からでは得られないことを、肌で理解できたと思いますが、まだまだ表面しか見ていないと感じています。

この春帰国し、東京でのピーマイパーティーに初参加。調理担当でした。限られた食材でラオス料理を作る努力はすごいですね。化学調味料をいっさい使わないのが、日本らしいなーと思いました。  
(勝占紀子)

※ 勝占さんは2年間のラオス在住の間、事務所でボランティアをしてくださって、この春帰国したばかりです。

#### ■ パーティーだから、裏方だって 楽します！

今年は準備の段階から、ボランティア主導・主体で作業が行われました。よかったですのは、当日も自分たちが楽しむことでパーティーを盛り上げ、皆のアイディアや個性がプログラムに、展示物に反映され、パーティーに変化をもたらしたこと。参加者の方に楽しかったと言つてもらえたこと。大勢の留学生たちが手伝ってくれて、パーティーに華やかさと重



和室で子ども文化センターを再現。  
紙芝居を演じる留学生たち。

# お知らせ

## ■毎日1クリック！のご協力を (7月まで)

味の素グループの社会貢献事業「あしたのもとクリック募金」で、5月から「ラオスのこども支援」事業が取り上げられています。これは、ネットユーザーが、賛同する団体をクリックすると、味の素グループから1円が寄付される、という仕組み。ユーザーにはお金がかかりません。1日1クリック有効です。「ラオスのこども支援」が表示されたら、クリックを！

<http://www.ajinomoto.co.jp/phila/index.html>  
当会ホームページ <http://deknoylao.org> の近況報告からもリンクしています。

## ■2004年度定期総会を開催します

活動会員の方には議決権があります。賛助会員の方も出席して発言していただくことができます。過去1年、これから1年の活動全体の動きをまとめて知る機会ですので、ぜひご参加ください。終了後に交流会も予定しています。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

日時：8月7日（土）13:00～17:00

場所：ライフコミュニティ西馬込

2階特別研修室

## ■麻布十番納涼祭り国際バザール

### 日程決定

毎年恒例、夏の一大イベント、通称「麻布」。当会は留学生と協力して毎年出店、ラオス料理を販売しています。詳細が決まつたらホームページなどでお知らせします。

期間：8月20日（金）～22日（日）

時間：15:00～20:30

場所：一の橋親水公園（東京都港区）

## ■国際協カフェスティバル2004

NGO、国際機関など様々な団体が出展する国際協力の祭典。当会も毎年参加しています。

期間：10月2日（土）・3日（日）

場所：日比谷公園（東京都）

## ■次号のラオスのこども通信32号は11月 頃発行予定です

\* \* \*

NGOの情報をほぼ網羅

『国際協力NGOダイレクトリー2004』

国際協力に携わる日本の市民組織要覧

【B5版 423ページ／価格3,000円（会員  
2,400円）／送料300円】

地域や社会開発・環境・人権・平和など、様々な分野で活動する日本のNGOについて、最新の詳細なデータを収録。NGOについて知りたい、参加したい、働きたいという方に役立ちます。

詳細情報 URL <http://www.janic.org/pr/dir.html>

《お問い合わせ》

（特活）国際協力NGOセンター[JANIC]

担当：戸賀（とが）

TEL : 03-3294-5370

FAX : 03-3294-5398

\* \* \*

東京事務所のスタッフの異動

5月から小川直美が1年間の契約スタッフになりました。中期計画1年目の組織強化に伴う諸業務を担当する予定です。

2002年11月より国内業務全般を担当してきたスタッフの藤沢佳代が、6月で退職しました。

「約1年半の間、ボランティア・関係者の皆様には一方ならずお世話になりました。皆様との素敵な出会い・会での貴重な経験を大切に、今後もがんばります。会の益々の発展を祈念いたします。」藤沢佳代

## ラオス語おもしろ言葉③

バーシーの儀式で



## 会員制度について

**活動会員** 定款に定める会の活動目的に賛同し、積極的に活動に参加していただける方なら、どなたでも活動会員に登録することができます。活動会員は、年1回の総会で議決権があります。ボランティア保険加入費と通信費として、年会費1,500円を頂きます。くわしくは、事務局まで入会申込書をご請求ください。

**賛助会員** 賛助会員に会費はありません。ご寄付、ボランティアなど、何らかの形でご協力くださった方が賛助会員です。郵便振込でご寄付の際に、賛助会員として登録させていただきます。登録を希望されない方は、郵便振込用紙の指定の場所にチェックを入れてください。また、郵便振込という形以外のご協力者の方の中で、賛助会員登録をご希望の方は、事務局まで入会申込書をご請求ください。

# \*\*\* NGO ネットワーク \*\*\*

「世界中の子どもに教育を」キャンペーン2004

全国から「子ども議員」が集まって意見書を作成。  
国会議員と政府に手渡した！

「2005年までに男女の教育の格差をなくす」「2015年までにすべての人に無償の基礎教育を行う」と世界の国々が2000年に約束（ダカール行動枠組み）したことを守るようにと、世界約180か国のNGO、教職員組合が4月にキャンペーンを繰り広げました。

日本でも「ラオスのこども」が加わるJNNE（教育協力NGOネットワーク）が参加して、「世界中の子どもに教育を」キャンペーン2004（代表・森透）として、「子ども国会」を東京で開催しました。

高校生と大人とで実行委員を組み、「子ども議員」（13～18歳）を全国に募って、北海道から九州まで約110人が参加。4月23日の夜から1泊2日で、「世界の教育を受けられない子ども」

「日本の教育の質」などについて意見をぶつけあいました。子ども議員は、「いじめを受けていた」「障がいを持つようになり、あらためて教育について考えさせられた」「みんなの話を聞いてみたい」など、それぞれの思いを胸に参加。

聴覚障がいを持つ参加者からの「聾学校の授業は手話を使わず（使えず）、生徒は授業が理解できない」との発言に、日本の教育について、あらためて問題を知らされました。

話し合われたことは意見書にまとめ、希望者で、翌週、国会議員、外務省、文部科学省に届けました。子ども議員から寄せられた声を紹介します。

東京・国連ハウスで「子ども国会」を終えて。



「とても楽しく、刺激的な2日間でした。同じことに興味を持っている仲間たちと話せたこと、教育や社会について考えていることも聞いてもらえたことが、とてもプラスになりました。世界中で同じ時期に同じ取り組みを！」

「悩んでいるのは自分だけじゃない、がんばろう、って思えるようになった。お互いに理解しようって思うようになった」

「最初から準備された意見書を出して終わりなのかと思っていたのですが、うれしいことにその反対でした」

（森透／「世界中の子どもに教育を」キャンペーン2004代表）

## 「正統」がない研修

国際協力NGOセンターと日本ユニセフ協会の共同プログラム、「『南』の子ども支援NGO能力強化5ヶ年計画」に委員として参加して3年。今年も春先に、合宿も含め6回の研修が開催された。今年の参加団体は、超大規模組織から小規模組織まで、6団体と少なかったものの、それぞれの組織により、新しい展望を開くチャンスとなつたようだ。

この研修の特徴は、「NGO活動にお手本、正統は無い」というスタンスが貫かれていること。参加団体がそれぞれの「現在」を発表する中で、他の参加者からのアドバイス、意見、注文を受け止め、自らの力で組織運営を見直し、回答を見

つけようという構成である。

今年は、「なぜ『南』の子ども支援なのか？」と題して、組織の活動理念を問うセッション。その理念を具体化するにふさわしい組織運営となっているかを考えるセッション。そして、組織改善のための行動計画を作成するセッションと三部構成で展開した。

今回の参加団体で個性的だったのは、子ども参加、児童労働廃絶などに取り組んでいる高校生を主体とした団体。組織運営や現場経験は充分でなくとも、目指す心意気はあつく、今後のNGOを担ってゆくに足りる迫力を持っていた。

感じることは、「研修」は参加者だけ

が成長するのではなく、委員にとってもたいへんな学びの機会であるということ。これまで、研修を構成する過程で、NGOとして踏まえるべき手順、押さえ得るべきポイント、論点を明確にする技術など、たくさんのこと学び、会の運営に反映させることができた。現在、当会で作成中の次期中期計画も、ここで学んだ「論理性」を基本に組み立てられている。

また研修とともにすることで、同じ志を持つものの輪が広がり、さまざまなアドバイス、知恵を借りることができるようになってきている。感謝多々。

（野口朝夫）

## JNNE 研究会、報告書を作成

教育協力NGOネットワーク（JNNE）では、外務省のNGO活動環境整備支援事業で研究会（座長・森透）を行い、このほど、報告書2003として『NGOの教育協力のガイドライン【学校の外の教育編】』をまとめました。

学校教育が及ばない、あるいは画一的な教育では十分でない、または公教育自体が成立しない、ストリートチル

ドレン、少数民族、紛争下・紛争後地域の子どもたちに対して、NGOはどう支援できるのか、すべきでないことは何か、などについて、事例をもとに研究をしました。学校外の教育はノンフォーマル教育とも呼ばれ、形にとらわれることなく学ぶ人本位の内容とすることが可能で、NGOならではという分野といえます。「ラオスのこども」が

支援するCCCもノンフォーマル教育の一つともいえ、新たな可能性を探る契機となりました。

（報告書は、外務省のホームページで見ることができます。ただし、現在は、まだ前年度のものです。検索は、次の順で行ってください。外務省>ODA>ODAとNGO>分野別NGO研究会 教育）  
(森透)